

## 『 一 支 国 』

2019. 新年号



山口領三さん出品「しまふくろ」号



(株)野元牧場出品「えいこ28」号の枝肉

第9回壱岐市和牛共進会の様子(記事は5ページに掲載)

### 迎春

あけましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の壱岐の肉用牛につきまして、子牛価格は年間平均83万円と高値で取引され、堅調に推移しました。しかし、その一方では、高齢化に伴う飼養戸数の減少、厳しい肥育経営などの現状もあります。そのような中、家畜保健衛生所としましては、家畜防疫対策とともに、生産性の向上を図るため、繁殖成績向上や慢性疾病対策等に引き続き取り組んでまいります。

最近の家畜衛生の状況につきましては、中国等の東アジア地域で、口蹄疫、アフリカ豚コレラ、高病原性鳥インフルエンザなどの越境性動物疾病が頻発しており、また、昨年9月には、岐阜県で豚コレラが発生するなど、これら越境性動物疾病の本県への侵入リスクが非常に高まっております。ひとたび発生すると生産基盤を脅かす事態となりますので、農家の皆様方におかれましては、引き続き、農場・畜舎への出入り時の車両・人等の消毒や部外者の立入制限など飼養衛生管理基準の徹底と自己点検をお願いいたします。

この1年が皆様にとって、素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

壱岐家畜保健衛生所 所長 鬼塚伸幸



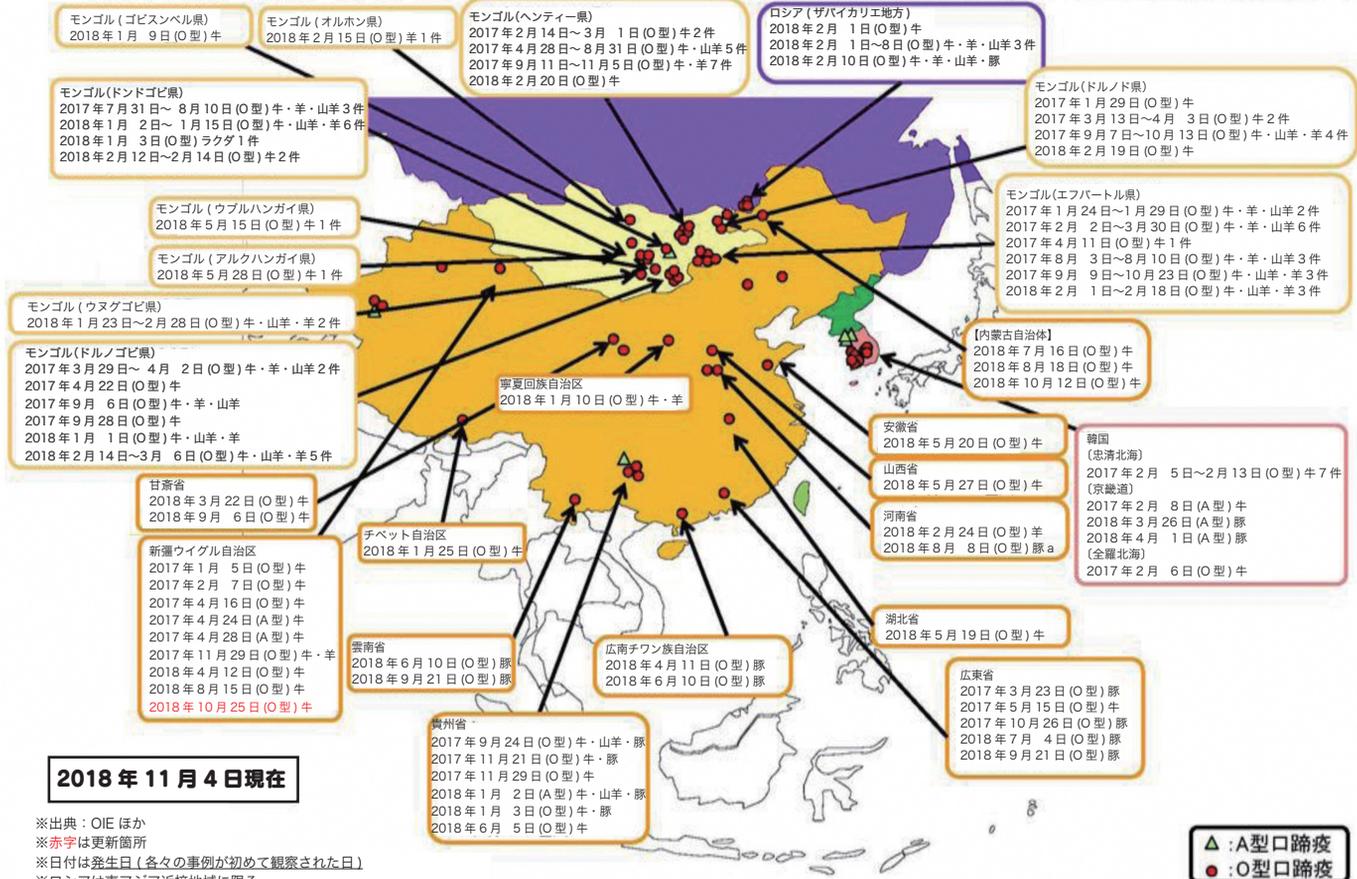
壱岐振興局農林水産部 壱岐家畜保健衛生所

〒811-5734 長崎県壱岐市芦辺町国分本村触1385-1 TEL : (0920)45-3031  
E-mail : s13230@pref.nagasaki.lg.jp FAX : (0920)45-3386

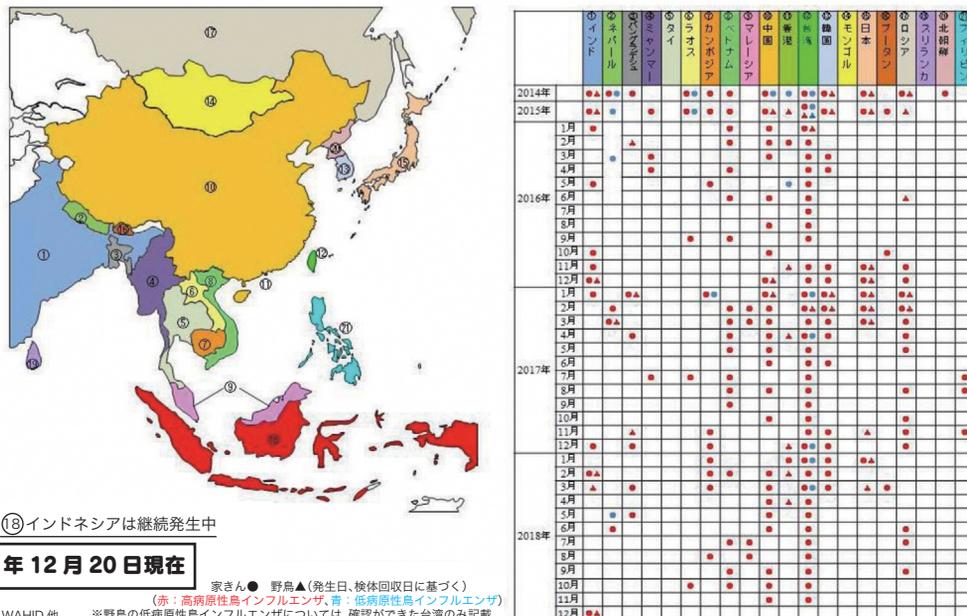
# 口蹄疫および鳥インフルエンザの発生状況

我が国近隣の東アジア地域では、依然として口蹄疫や鳥インフルエンザの発生が相次いでいます。渡り鳥のシーズンとなり、国内では平成30年10月以降、野鳥からの低病原性鳥インフルエンザウイルスの検出事例が2件報告されています。口蹄疫については、平成22年以降、国内での発生はありませんが、病原ウイルスの国内への侵入リスクは非常に高い状況が続いています。ウイルス侵入防止のため、今後も引き続き、飼養衛生管理基準の徹底をお願いします。

中国、香港、台湾、韓国、北朝鮮、モンゴル、ロシアにおける口蹄疫の発生状況(2017年1月以降の発生)



## アジアにおける高病原性及び低病原性鳥インフルエンザの発生状況



## 豚コレラおよびアフリカ豚コレラの発生状況

平成30年9月に岐阜県の養豚農場において、国内では26年ぶりとなる豚コレラの発生が確認され、12月15日までに5例の発生が確認されています。また、発生農場付近の野生いのししを検査した結果、77例の豚コレラ陽性事例が確認されています。

一方、アフリカ豚コレラは、中国で発生が拡大しており、平成30年12月20日時点で、109箇所、約26万頭の飼養豚が殺処分されています。過去の事例から、ウイルスに汚染された食品残渣の給与や野生いのししなどによりウイルスが農場内へ持ち込まれたことが原因と考えられています。国内での発生はありませんが、中国からの旅客が国内に持ち込もうとした畜産物から、アフリカ豚コレラウイルス遺伝子が検出されたこともあり、国内での発生が危惧されています。

下記の点にご留意のうえ、発生防止に万全を期していただきますようお願いします。

- 衛生管理区域を明確にし、関係のない者や野生動物を立入らせない措置を講じ、出入口での車両や人等の消毒を励行してください。
- 毎日、飼養豚の健康観察を行い異常豚の早期発見・早期通報に努めてください。
- 生肉や肉製品を含有またはその可能性がある飼料は、加熱処理(70℃以上で30分以上、または80℃以上で3分以上)が適切に行われたものを用いてください。
- できるかぎり、発生国への渡航は、自粛するよう努めてください。

豚コレラおよびアフリカ豚コレラは、口蹄疫と同様に家畜衛生上きわめて重要な越境性動物疾病です。症状は類似しており、発熱や全身性病変が特徴で、これらの伝染病が発生した場合、畜産業界へ甚大な被害をもたらします。

中国におけるアフリカ豚コレラの発生状況



## 鳥インフルエンザ、口蹄疫発生に備え 防疫演習を開催

鳥インフルエンザや口蹄疫の発生に際しては、迅速・的確な防疫対応がとても重要です。吉岐地域では、毎年、両疾病が発生した場合に備えて防疫演習を実施し、防疫体制の強化に努めています。

9月15日の土曜日には、休日における異常通報時の振興局内連絡体制の確認演習を行いました。

また、10月22日に鳥インフルエンザ、11月28日に口蹄疫の実地演習を行い、現場拠点の設営・運営、防護服の着脱、捕鳥作業、消毒作業の演習を実施し、作業内容の確認を行いました。

演習には、県のみならず市や関係団体の職員の方々にも参加していただき、作業内容の理解を深めていただきました。今後も、関係者の皆様と連携しながら防疫対策に取り組んでいきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



鳥インフルエンザ 防疫演習(捕鳥作業)



口蹄疫防疫演習(車両消毒)

## 動物用医薬品は正しく使いましょう

出荷した肉や卵に動物用医薬品が基準値を超えて残留した場合、回収または廃棄の対象となります。動物用医薬品は下記の点に注意して適正に使用し、安全・安心な畜産物を生産しましょう。



- ① 動物用医薬品は獣医師の指示に従って使用しましょう。
- ② 投薬を行った場合、投薬中や投薬後の家畜・畜舎に表示して、出荷時に使用禁止(出荷制限)期間を間違えないようにしましょう。
- ③ 出荷する家畜・家きんや卵を出荷している家きんは治療記録を確認しましょう。
- ④ 書類や帳簿を保管しましょう。

- ・ 動物用医薬品の購入伝票や**使用記録**
- ・ 動物用医薬品指示書や出荷制限期間指示書

※万が一問題が発生したときに原因究明のための重要な資料となります。

## 平成31年の定期報告をお願いします！

家畜を飼養している方は、家畜伝染病予防法第12条の4第1項の規定により1年に1度県への報告が義務付けられています。

昨年提出された方も、今年の提出が必要になりますので、よろしくをお願いします。

- 対象者：牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし、鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥を飼養するすべての方
- 報告内容：①所有者と管理者の氏名・住所飼養場所の住所  
②家畜の種類と頭(羽)数及び畜舎数  
③飼養衛生管理基準の遵守状況  
④農場敷地の平面図  
⑤設置した消毒設備の種類  
⑥埋却地の確保状況



※いずれも平成31年2月1日現在

- 報告期限：平成31年4月15日(月)(家さんは6月17日(月)まで)

④～⑥については平成30年度の届出内容と変更がない方は省略可能です。

各種様式は、同封されている様式もしくは、家畜保健衛生所および農協各支所に置いてありますので、ご利用ください。ご不明な点等があれば、家畜保健衛生所までお問合せください。

## 第9回壱岐市和牛共進会開催

4年後の全国和牛能力共進会鹿児島大会に向け、意欲を高めることを目的に平成30年10月25日に第9回壱岐市和牛共進会が開催されました。

種牛の部には、各地区から選抜された第1～第4部の代表牛計55頭が出場し、グランドチャンピオンには第4部(高等群)の主席、勝本地区の山口領三さん出品の「しまふくろ」号、「たかこ」号親子が選ばれました。(表紙写真)

肉牛の部には去勢18頭、雌10頭の計28頭が出品され、金賞には株式会社野元牧場さん出品の「えいこ28」号が選ばれました。(表紙写真)

### ●各部優秀賞1席の生産者及び系統

部	地区名	生産者名	名号	一代祖	二代祖
子牛	勝本	豊坂 敏文	くみ	金太郎3	安福久
若雌1	志原	(株)野元牧場	みくに	美国桜	華春福
若雌2	石田	大谷 英夫	ありさなえ8	美国桜	平茂勝
高等群	勝本	山口 領三	しまふくろ たかこ	勝忠平 隆之國	安福久 勝忠平
肉牛	志原	(株)野元牧場	えいこ28	金太郎3	安福久

おめでとうございます！

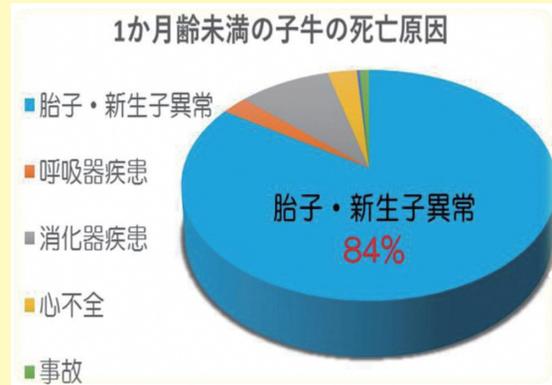
## 元気な子牛を生ませましょう！

吉岐管内での牛の死亡状況について調査したところ、年間約450頭の牛が死亡し、その半数以上が1か月齢未満の子牛であることが分かりました。

その死亡原因としては、早死産や新生子疾患が総死亡頭数の約8割を占めていました。

1か月齢未満の子牛の死亡を予防するためには分娩前後の取組みが特に重要となります。

分娩前から準備を怠らず、元気で丈夫な子牛を産ませましょう！



### ●分娩前

#### ・母牛の体格を見極めて、種付けをしましょう

母牛に対して、子牛が大きい場合に分娩事故が高くなります。

特に初産時は、産道が狭いこともあり事故率が高くなります。少なくとも体高125cm以上、12か月齢以上の牛に種付けを行ないましょう。

#### ・分娩2か月前には増し飼いをしましょう

分娩2か月前から、胎子は急速に発育するため、母牛には通常より多くのタンパクとビタミンが必要となります。丈夫な子牛を生ませるためにも、分娩2か月前からは増し飼いを確実に行いましょう。

### ●分娩後

#### ・初乳を確実に飲ませましょう

子牛は初乳による移行抗体の獲得が非常に重要で、初乳未摂取の子牛は、死亡リスクが74倍高まるとも言われています。

基本的には24時間以内に、できれば抗体の吸収率が高い6時間以内に母牛の初乳を飲ませましょう。



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。最近、平成の終わりと新元号が公表される日が近づきつつあることに、どことなく寂しさと期待を感じておりますが、みなさまはいかがでしょう。終わりへの寂しさや不安は当然のことですが、始まることへの期待をより大きくできるように努めていきたいですね。

